

平成30年度 租税教育実践発表会

石巻地区租税教育推進協議会

次 第

1 開 会

2 開 会 挨 拶 石巻地区租税教育推進協議会会長
(石巻市教育委員会教育長)

3 実践者紹介 石巻市立大原小学校 教諭 浅 野 梨 夏
石巻市立北上小学校 教諭 松 川 幸 浩
女川町立女川小学校 教諭 高清水 英 俊

4 実 践 発 表

5 質 疑

6 閉 会 挨 拶 石巻地区租税教育推進協議会副会長
(石 巻 税 務 署 長)

7 閉 会

実 践 発 表 会 資 料

石 巻 市 立 大 原 小 学 校

教 諭 浅 野 梨 夏 1

石 巻 市 立 北 上 小 学 校

教 諭 松 川 幸 浩 8

女 川 町 立 女 川 小 学 校

教 諭 高 清 水 英 俊 19

平成30年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立大原小学校
教諭 浅野 梨夏

1 はじめに

税金とは、国の財政を賄う収入の最も主要なものであり、私たちが健康で心豊かに生活するために大切な役割を果たしている。現在、私たちは、消費税や住民税などの50種類以上の税を納めている。しかしながら、児童の知識は曖昧で、自分の暮らしと税が密接な関係にあることに気付いていない児童が多い。そのため、今回の学習を通して、自分たちの暮らしと税金の関係について関心を持ち、税の必要性についての理解を深めさせていきたい。

私たちの住む大原地区は東日本大震災で大きな被害を受けたが、防波堤工事や道路建設、高台住宅の整備等、復興に向け着実に歩んでいる。復興に向けた着実な歩みは税制制度に支えられたものであり、税金の仕組みや必要性等を理解させていきたい。また、税金が人と人をつないだり、災害の際に有効に使われたりしているという側面も理解させていきたい。

2 児童の実態

本学級は、5年生1名（男子）、6年生3名（男子1名、女子2名）の複式学級である。事前に「税」に関するアンケートを行った。結果が以下の通りである。

平成30年9月10日実施

質 問 事 項	回 答
① 「税金」という言葉を聞いたことがありますか。	ある 3名
	ない 1名
② 「税金」の種類で知っているものを書きましょう。	食料 1名
	分からない 3名
③ 税金はどこに集められていると思いますか。	国 1名
	日本の首都の東京 1名
	分からない 2名

④ 税金は何に使われていると思いますか。	自分たちが生活するために必要なお金 1名 分からない 3名
⑤ 税金は必要だと思いますか。	必要 2名 分からない 2名
⑥ 必要と回答した児童の理由	自分たちの生活が大変になると思ったから。 病気で入院した時の料金が高くなるから。

以上、アンケート結果から「税金」という言葉は聞いたことのある児童がほとんどだが、税の種類や税金がどこに集められているのか、何に使われているのかについては、分からない児童が多かった。また、税金の使い道について、回答した児童も自信がないと答えていることから、あまり認識がないと考えられる。税金の必要性については、理由が書けている児童がいることから、必要であることについては、理解しているようである。

これらから、「税金」について言葉は聞いたことがあるが、税金の役割や仕組みを理解している児童は少ないと考えられる。

3 指導にあたって

以上のような実態から、指導に当たっては、以下のことに留意しながら学習を進めていきたい。

- (1) 外部講師による租税教室を実施することにより、税に対する理解や関心を高め、身近な生活と税には深いかわりがあることに気付かせる。
- (2) 学習した内容を絵はがきで表現し、さらに税に関する関心を深め、税の大切さについて理解する。

4 指導計画（2時間扱い）

時 間	学 習 内 容
事前指導	「税に関するアンケート」を実施 ○税に関する読書及び調べ学習を実施

税について考えよう(1)	「租税教室」(実践授業) ○税について外部講師を招き，税が自分たちの生活に深くかかわっていることについて知り，必要性について理解する。
税の大切さを伝えよう(1)	「絵はがきにまとめよう」 ○租税教室で学習したことを確認し，改めて，税が自分たちの生活に深くかかわっていることを理解する。 ○絵はがき作りを通して，税の大切さについて考え，広く伝えようとする。

5 実践授業【租税教室】

(1) 目標

税が自分たちの生活に深くかかわっていることについて知り，税の必要性について理解する。

(2) 実施期日

平成30年9月11日(火)

(3) 本時の展開

段 階	学 習 内 容 ※児童の反応	学 習 の 様 子
導 入	1 本時の学習課題を確認する。 税金についての理解を深めよう。 2 外部講師を紹介する。 ※税金って何だろう。	
展 開	3 税金について考える。 (1) 学校と税金の関わりを例に，身近な税金の使い道を理解する。	

6 事後指導と振り返り

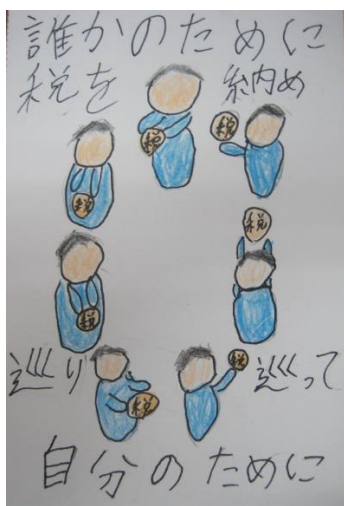
租税教室を終えて、配布された小学校社会科用資料「わたしたちの暮らしと税金」を活用し、税金と自分たちの関わりや必要性について改めて学習した。事後アンケートでは、税金の種類や使われ方について以前より理解することができたと全員が答えた。

【学習後の感想】

- ・学校や教科書は税金でできていることがわかった。前は税金のことが全然わからなかったけど、いろいろなことに使われていることが分かった。
- ・身近なものにたくさん税が使われていたり、設備や施設にも税が使われていたりすることが分かった。DVDを見て、税のおかげで自分たちが生活しているとわかってよかった。
- ・災害が起きたときにも税金で助けてくれていることが分かった。租税教室行って、税金がどんなことに使われているのかが分かった。実際にDVDを見て、税がなかったら自分たちにどんな影響があるのか詳しく知ることができた。海外には、ポテトチップス税や独身税などのおもしろい税があることにびっくりしました。
- ・学校や教科書は税金で作られていることにびっくりしました。私たちが税金を支払っていることを初めて知りました。DVDを見て、税金がなくなったら町があれだったので、税金は大切だなと思いました。



【税に関する絵はがき】



7 成果（○）と課題（●）

○税金とはどのようなものかを知ることができ、自分たちの身の回りのものの多くが税金によってできていることに気づくことができた。

○税金があることによって、自分たちが生活できていることを知ることができ、税の必要性について考えることができた。

○外部講師による授業を実施したことで、専門的な話を知ることができ、子供たちの関心が高まった。

○世界の税について触れたことで、その他の税についても興味を持ち、子供たち自身で調べ、理解することができた。

●租税教室によって、税金の使われ方を知ることができたが、税金に関する授業は少ない。少しでも税金について知ることができるように、機会を見つけて、継続的に指導していく必要がある。

8 実践を振り返って

今回、租税教室を行うにあたって、事前アンケートを行ったが、子供たちが税に対してあまり理解していないことに驚いた。租税教室を行ったことで、税の種類や使われ方について詳しく知ることができた。税の大切さを学び、税の必要性について理解することができたようである。実践授業後、子供たちから「世界の税をもっと知りたい。」との声を聞いた。学習したことで税について興味を持ったようである。自主学習等での学習として促すことができた。学校の授業では、税について触れる機会が少なく、詳しく説明してもらうことはなかなかないので、このような機会を与えていただいたことをとてもありがたく思う。

平成30年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立北上小学校
教諭 松川 幸浩

1 はじめに

石巻市立北上小学校は、東日本大震災の被災により、元々あった3小学校が閉校、統合して25年度に開校した。北上小学校では、「心のふるさとをもつ人間は、心が安定して、自分自身を見失わずに人に尽くすことを幸せに感じられる人である。」という理念の下、「ふるさとを愛し（北上愛）、豊かな知恵と心を持ち、たくましく生きる児童の育成」を教育目標に掲げた。この教育目標具現化のために、開校当初から研究主題を「ふるさと北上に誇りと愛着がもてる児童の育成」とした。副題を「生活科と総合的な学習の時間での探究的学習活動の充実を通して」として研究を進めてきた。

以上のことから、本校でふるさと愛を育むために、地域と積極的に関わる体験活動を重視してきた。しかし地域には、神割崎（公共トイレの管理など）、今年2月にオープンした北上観光物産交流センターや川のビジターセンターなどの公共物が数多くあるのだが、実は税金で建設されたり、運営されたりしていることを知らない児童が多い。よって、今回の租税教育を通して、児童が地域と税との関わりについて学べるようにしていきたい。

また、学区内には、コンビニエンスストアがなく、個人で経営している店舗が数える程しかないので、児童は日常的な買い物の経験が乏しいと言える。つまり、消費税を直接的に納めているという感覚を掴めていない児童が多いと感じる。また、金融機関が郵便局と農協の2か所のみであるので、県民税や市民税、自動車税などの各種税について金融機関を通して払い込んでいることを目の当たりにした経験も少ないと言える。したがって、児童が自分と税との関わりについても学べるようにしていきたい。



石巻市北上観光物産交流センター



武山商店



相沢商店



橋浦郵便局

2 児童の実態（男子8名 女子4名 計12名）

本学級の児童は、委員会の仕事、当番の仕事など、自分の役割をしっかりと果たす責任感の強い児童である。学習では、課題をどうやったら解決できるか友だちと相談して見通しをもったり、自分の考えをノートにしっかりとまとめたり、学習意欲の高い児童である。

また、税に関するアンケートを行った。結果は次の通りである。

(1)「税」と聞いてどんなイメージを持ちますか？	
お金5	国民のお金1 人々に使うお金2 大人がよく文句を言うイメージ1 難しい1 取られるもの2
(2)「税」の種類で知っているものは何ですか？	
消費税12	自動車税1
(3)税金はどこに納められていると思いますか？	
市役所4	国5 県1 <u>銀行2</u> <u>日本のどこか1</u> <u>分からない1</u>
(4)税金は何に使われていると思いますか？	
<u>分からない4</u>	町の発展2 いろいろ4 学校2 みんなが使うもの1
(5)税金の使い道はどこで決めていると思いますか？	
<u>分からない3</u>	国5 県1 いろいろな場所4
(6)税金は必要だと思いますか？（理由も書きましょう。）	
<u>必要10</u>	理由 税金はいろいろなことに使われていると思うから。2 生活が不自由になってしまうから。5 ないとお金がいっぱいかかるから。1 公園などをつくる時の費用にするから。1 なんとなく1
分からない2	税金が何に使われているか分からないから。2
(7)税金について知りたいことはありますか？	
<u>ない11</u>	税金が何に使われているか1

以上の結果から、全員が消費税のことは知っている。しかし、税金をどこに納めているのか、何に使われているか、使い道はどこで決めているかについて分からないと答えた児童が多い。つまり、税に対する基礎的・基本的な知識が乏しい。

また、全員が税金について必要であると感じている児童が多いのにも関わらず、知りたいことがないと答えた児童がほとんどである。つまり、税についての興味関心が乏しいといえる。

したがって、今回の租税教育を通して税に関する基礎的・基本的な知識と理解の定着ができるようにしていく。また、税に対する興味関心を高められるようにしていく。

3 指導にあたって

指導にあたっては、前述を踏まえ、次の4つの手だてを講じていく。

(1) 地域と税との関わり

総合的な学習の時間を核として、地域の人・もの・ことと税金についてのつながりに着目させる。具体的には、実際に地域の建物の建設費はどれぐらいかかっているか、その建設費には税金が使われていることを理解できるようにする。また、今後の地域の未来を考える学習を通して、自分たちのプランの中で、税金を必要とした建設物や計画にどれぐらいの費用がかかりそうか簡単にでも試算できるような機会を設ける。

(2) 自分と税との関わり

大人になるまで消費税を実際に支払う場面が多々出てくるので、特に自分と消費税との関わりを重視していく。そのために、実際の買い物を通して、どれぐらい消費税を納めたことになるか算出し、納税を実感できるようにしていく。

(3) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

税務関係者等を講師として招聘し、租税教室を実施する。その中で、税金とは何か、消費税以外にどんな税の種類があるか、税金は何に使われているなどについて具体的なお話をいただけるようにする。

(4) 税に対する興味関心の向上

上記の(1)(2)(3)の手だてを講じることを通して、振り返り（学習感想）の機会を十分に確保する。今後の自分と税との関わり方について考えさせ、価値付け、称賛していく。

4 総合的な学習の時間、社会科との関連

(1) 総合的な学習の時間との関連

○横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）

- ・自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題（資源エネルギー）

○地域や学校の特色に応じた課題

- ・町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織（町づくり）
- ・商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会（地域経済）

（文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説
総合的な学習の時間編』，日本文教出版）

(2) 社会科との関連

「租税の役割」については、租税が国や県、市によって行われている対策や事業などの費用として使われていること、それらは主に国民によって納められた税金であることなどを理解できるようにする。その際、限られた財源をどのように配分するのかを決める責任は、国会や地方議会などの制度を通して、国民や住民にあることに触れるようにする。

（文部科学省（2018）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説
社会編』，日本文教出版）

5 指導計画（43時間扱い）

総合的な学習の時間 年間計画

学年	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月
6年	オリエンテーション1	ふるさと北上① 16 「ふるさと北上探訪」			ふるさと北上② 10 「会津若松とふるさと北上」	
	北上の伝統（和太鼓）5（鼓笛）3		北上の伝統（和太鼓）3（鼓笛）1		北上の伝統（和太鼓）3	
学校行事その他	入学式 家庭訪問 避難訓練 学習参観 代表委員会	運動会 1年生を迎える会 交通安全教室	避難訓練 代表委員会 岩手合宿	学習参観 租税教室（社会科） 社明パレード	祖父母参観 修学旅行 白浜海水浴場 復活祭 交通安全教室 租税はがきコンクール	代表委員会 学芸会

11月	12月	1月	2月	3月
ふるさと北上③ 17 「マイプラン北上」				
北上の伝統（和太鼓）4（鼓笛）3				
避難訓練 教育相談	学習参観	避難訓練	学習参観	6年生を送る会 卒業式 修了式

6 実践

「3 指導にあたって」の(1)～(4)の手だてを講じたことによって、以下のよう
な効果や変容があった。

(1) 地域と税との関わり

6月に、総合「歴史・文化探訪」の校外学習にて、北上の多くの歴史・文化に
関する施設を巡った。その中で北上観光物産交流センターを訪れた。この施設は
今年2月にオープンしたばかりである。北上の名産品が購入できたり、訪れた人
が休憩できたりする場である。職員の方からの概要の説明の中で、建設費が4,
200万円であるとお話いただいた。これは、税金で建てられたという事実もお
話いただいた。最近、身近な所で多額の税金が使われていることを実感するこ
とができた。



また、7月後半に税務関係者等を講師として招聘し、租税教室を開いた。レプ
リカであるが、1億円と4,200万円の実際の重さを体感した。児童の感想か
ら、「これだけの税金をかけて建てた建物であれば、よりお客さんに来てもら
い、北上の名産品を買ってもらってほしい。」という感想が挙がり、地域と税と
の関わり、税のよりよい使われ方について十分考えることができた。



今後、総合「マイプラン北上」の学習の中で、公共施設、特に4月にオープン
した川のビジターセンターの使い方、いろんな人たちに使ってもらうためのイベ
ントの計画について職員の方と共に構想する学習を展開する。費用(税金)は、
どれぐらいかかりそうか簡単にでも試算できるような機会を設ける。そして、費
用対効果があるかどうか考えられるようにしていきたい。

(2) 自分と税との関わり

修学旅行の際、児童はおみやげを購入したり、絵付け体験をしたりし、1人約7,000円を使った。そのうちの8%は消費税として納税したことを説明した。その後、児童は6年の算数で学習した「比」を活用して、実際にいくら消費税を納めたのか金額を算出した。1人につき、およそ520円の消費税を納めたことが分かった。感想から「意外と高い税金を支払っている。」、「520円あったら、結構なものが買える。」と消費税額の大きさを実感することができた。



(3) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

租税教室の中で、税の種類、税の使い道、納税は国民の三大義務であることを紹介していただいた。児童から「所得税や市民税などがあることが分かった。」、「学校の実験器具や体育の用具などは税金で購入できているのが分かった。」などの感想が挙がり、税に関する基礎的・基本的な知識を押さえることができた。

また、特に印象的だったことは、税金が無くなったら世の中はどうになってしまうのか動画で紹介してもらったことである。税金が無くなったら、公共サービスを受けられなくなってしまう。例えば学校の教科書が有料化となってしまう。病院への受診・手術に莫大な費用がかかる。橋や道路が個々人のものになってしまう、不当な交通料を支払わなければならないなどが紹介された。児童から「税金がないと確実に不安定な世の中になる。税金は国民全員が支払う必要がある。」という感想が挙がり、納税の必要性を感じることもできた。



(4) 税に対する興味関心の向上

上記の(1)(2)(3)の手だてを講じ、振り返りの機会を十分に確保してきた。上述した通り、地域と税との関わり、自分と税との関わり、税のよりよい使われ方、消費税額の大きさ、納税の必要性などについて考えることができ、税に対する興味関心が向上したのではないかと考える。

☆租税教室の感想から

税金がなぜ必要なのかを	ビデオを見て税金がいかに多いと分かった。
勉強できて、思ったのは税金がないと	
スラムのようにあると思いました。	1億円の重さも分かりました。
たとえば、道を通るのにも金をとられたり	税金がないと、食べ物も高くなって満足した食事
しんこがたぬになつたりして大変だと思いました	にはなりませんでした。
	ビデオを見て、税金がないと、道を通ったりするだけで、金をはらわなくて済むので税金は必要だと思いました。

☆自分が納めた消費税について算出した感想

7000円を使うと518円の消費税がかかっていることが分かりました。
12人全員での合計金額が5000円だったのでびっくりしました。税の重さ分かりました。
私達も、ちゃんと税をはらっている人だなと思いました。
国のことにつかわれるのならいいかな～と思いました。
むだなことにお金をつかわないようにしようと思いました。

7 成果と課題

- 地域や行事に使われている税金を身近に感じる事ができた。
- 消費税の納税経験により、税額の大きさを実感することができた。
- 税を捉え、児童の納税に参画する意識が芽生えた。
- 消費税以外の税について実感が十分でない児童が多い。今後、社会科の学習で公民の分野に入っていくので、消費税以外の税にふれていく。

資料1

「税金」に関するアンケート

名前（ ）

1. 「税」と聞いてどんなイメージを持っていましたか？

--

2. 「税」の種類で知っていたものは何ですか？

--

3. 税金はどこに納められていると思いますか？

--

4. 税金は何に使われていると思いますか？

--

5. 税金の使い道はどこで決めていると思いますか？

--

6. 税金は必要だと思いますか？（理由も書きましょう。）

--

7. 税金について知りたいことはありますか？

--

資料2

租税教室の感想

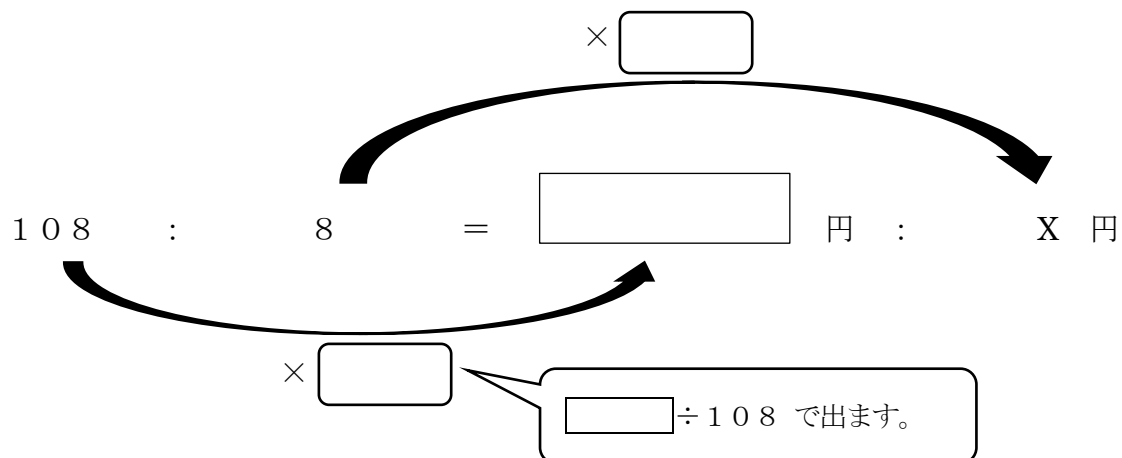
名前（ ）

資料3

消費税を出そう

名前 ()

税込み率 : 消費税率 = 使ったお金(税込み) : 消費税



☆計算スペース

☆消費税を出してみての感想

平成 30 年度

租税教室実践発表会資料



女川町立女川小学校
教諭 高清水 英俊

1 はじめに

国の財政を賄っている税金は、私たちの日常生活を支えるために使われており、教育や福祉、警察や消防、道路や公共の施設の維持・整備、地方自治体の財源にもなっている。

これまで児童は、社会科の歴史分野で「大化の改新」の『租、庸、調』の税の納め方を学んでいるが、税を納めることが「大変で厳しい」「辛い」といった印象を持っている。

そこで、児童の税に対する理解を深めるために、租税教室を実施することとした。今回の実践を通して、児童が税の大切さや必要性を理解し、政治や国の将来、女川町の未来について考える機会としたい。

2 児童の実態

本学級は、男子19名、女子17名、計36名の児童が在籍している。事前に税に関するアンケートをとったところ、以下のような結果となった。

- 1 「税」と聞いてどんなイメージを持ちますか。
 - ・お金 ・消費税（増額される） ・国のために使われるお金 ・公務員の給料
 - ・選挙運営費 ・問題になっている ・わからない
- 2 「税」の種類で知っているものは何ですか。
 - ・消費税 { ・所得税 ・土地（固定資産税） ・町民（住民税） } ・わからない※ { } は児童1名が記入。
- 3 税金はどこに納められると思いますか。
 - ・税務署 ・財務省 ・国会 ・銀行 ・政府 ・国 ・役場
 - ・東京 ・分からない
- 4 税金は何に使われていると思いますか。
 - ・公務員の給料 ・パトカーなど ・選挙運営費 ・国のため ・募金
 - ・国会 ・支援 ・被災地 ・国立〇〇を造るため ・道 ・国の建物
 - ・分からない
- 5 税金がどのように使うか、誰が決めていると思いますか。
 - ・議員 ・財務大臣 ・国の偉い人 ・総理大臣 ・政治 ・天皇
 - ・分からない
- 6 税金は必要だと思いますか。
 - ・必要（26人）
 - ・不必要（6人）
 - ・分からない（4人）
- 7 税金について知りたいことは何ですか。
 - ・税とは何ですか。 ・税は減らすことはできますか。
 - ・税は何のためにあるのか。 ・税をなぜ作ったのか。
 - ・誰がどのように決め、使われているか詳しく知りたい。
 - ・なぜ、税が高くなっているのか。

3 指導に当たって

児童は、税について詳しく学習していないが、テレビ等の情報から税に関する言葉をいくつか知っている。さらに、私たちの暮らしのために税金は使われていると感じている児童も少なくない。特に、「税の種類で知っているものは何か。」については、半数以上の児童が消費税と回答した。しかし、それ以外の税については、分からない児童がほとんどである。

また、36名中、26名もの児童が「税金は必要」と考えている。

以上のことから、この学習を通して、税に関する基礎的な知識を身に付けさせ、納税者としての意識を高めていきたいと考える。

4 指導計画（2時間扱い）

時 間	学 習 内 容	指導上の留意点	評価規準
時間外①	「税に関するアンケート」 ▷アンケートに記入する。		
1	租税教室① 実践授業Ⅰ ▷私たちの生活と税 ゲストティーチャー 女川町税務会計課 課長補佐 森田 誠 殿	○ゲストティーチャーの講話や視聴覚教材（DVD）を活用し、納税の必要性を具体的に知らせる。	○税金は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。 (知識・理解)
2	租税教室② 実践授業Ⅱ ▷女川町の暮らしと税 ゲストティーチャー 女川町税務会計課 参事 平塚 英一 殿	○女川町の税金についての講話を聞き、納税が町を支えていることを具体的に知らせる。	○女川町の税金と私たちの暮らしが密接に関わっていることを理解している。 (知識・理解)
時間外②	税に関する絵はがきコンクール ▷「税」の大切さを絵はがきに表す。		

5 社会科との関連

【日本の歴史】

『天皇中心の国づくり』

○大化の改新と天皇の力の広がり

・国を治めるための法律（律令）ができ、租・調・庸といった税を納めることや、兵役の義務が人々に課された。

・都のにぎわいを支える地方の人々の生活は、納税による負担が大変厳しいものだった。

『3人の武将と天下統一』

○大阪城と豊臣秀吉

・検地により、田畑の広さを調べ、年貢を納めさせた。

『江戸幕府と政治の安定』

○人々の暮らしと身分

・百姓は農村や山村、漁村に住み、収穫の半分にもなる重い年貢を納めたり、いろいろな力仕事をさせられたりした。

『明治の国づくりを進めた人々』

○大久保利通と明治新政府の改革

・税の仕組を改め、国の収入を安定させようとした（地租改正）。

『世界に歩み出した日本』

○条約改正をめざして

- ・修好通商条約と関税自主権の内容について確かめる。
- ・修好通商条約は、日本に関税自主権が認められていない不平等条約だった。
- ・関税自主権が認められていないことは日本にとって不利である。
- ・輸入品にかかる税金を自由に決められない。

【生活と政治】

『子育て支援の願いを実現する政治』

○集められた税がどのように使われているか知る。

- ・市は住民や会社から集めた税金や国からの補助金を使って事業を行っている。

○税金の集められ方と使われ方について調べる。

- ・ものを買ったときに税金がかかる。
- ・市区町村に住んでいる人、土地や建物を持っている人から集めている。
- ・会社や商売をしている人から集めている。
- ・警察や消防の仕事、道路や橋の建設に使われている。

○税金がなかったらどうなるのかを考え、税金の役割について話し合う。

- ・火事になっても消防自動車が来なくて、消火できない。
- ・ごみを回収する人がいなくなり、町中にごみがあふれてしまう。

『わたしたちのくらしと日本国憲法』

○税の働き

- ・三大義務（教育・勤労・納税）

6 実践内容

『私たちの生活と税』

(1) 目 標

- 税の種類や使われ方などを知り、税に関する知識を高める。

(2) 実施期日：平成30年9月4日（火）5校時

(3) 講 師：女川町税務会計課 課長補佐 森田 誠 殿

(4) 対 象：女川町立女川小学校6学年 計36人

(5) 本時の展開

段階	学習活動 ◎発問 ・児童の反応 ◇留意点	学習の様子 ◎発問 ・児童の反応
導入	1 これまでの学習を振り返る。 ◎これまで、税金に関してどんなことを学習したかな。 ◇聖徳太子や大久保利通などゆかりのある人物等をヒントとして提示する。 ・『租・調・庸』といった租税制度。 ・地租改正。 2 本時の学習内容を確認する。 税金について理解を深めよう 3 ゲストティーチャーを紹介する。	 ◎税金について知っていることは？ ・消費税 ・固定資産税 ・所得税

展開	4 ゲストティーチャーの説明を聞く。 (1) 国民の三大義務を知る。 ◎国民の三大義務を知っていますか。 ◇日常生活に関係していることを想起させる。 ・学校に通うこと。 ・働くこと。 ・税金を納めること。 (2) 税金の種類について知る。 ◎知っている税金の種類を発表しよう。 ・消費税 ・固定資産税 ◇プレゼンソフトを活用し、税金はどのように徴収されるのか理解させる。(国税・地方税) ◇誰が税金を納めるか、資料を活用してゲストティーチャーの話聞く。 (3) 税金の使い道について知る。 ◎税金は、誰がどのように使うのかな。 ・国民が使う。 ◇ゲストティーチャーから国民が納めた税は、国民のために使われていることを聞く。 (4) DVDを見る。 「マリンとヤマトの不思議な日曜日」 ◇DVDを視聴しながら、税金がなかったら私たちの生活がどのようなになるか知る。 (5) 1億円の重さを知る。 ・こんなに重いんだ。 ・大きい。 ・すごい。	国民の三大義務 教育の義務  勤労の義務  納税の義務  ◎日本国憲法で国民に求められる3つの義務は何だろう。 ・勉強する。 ・仕事をする。 ◎もう一つは何だろう。買い物をしている人は守っているね。 ・税を払う。 国税 〈直接税〉  所得税 復興特別所得税 復興特別所得税 〈間接税〉  消費税 酒税 たばこ税  ◎1億円のレプリカを持ってみよう。 ・重たい。 ・紙がこんなに重い。
まとめ	5 税についてまとめる。 (1) ゲストティーチャーのまとめの話を聞く。 (2) 学習感想を発表する。 6 次時の学習内容を知る。 ◇女川町の税金について学習することを話す。	 ※税に関する興味・関心が高まり、メモをしながらまとめを聞いていた。

7 税に関する絵はがきコンクールへの作品（9月応募）



8 租税教室実施後の感想文から

① 女子児童T

「税金は必要か？」という問題に対して、私は別になくてもいいのではないかと思いますでしたが、今回の租税教室で税金がなくなると町がゴミだらけになったり、横断歩道を渡るためにお金がかかったり、信号が消えて事故が多発したりと今の生活では考えられない不便なことが起こることが分かりました。そのことから、税はとても大切だと分かりました。税があるからこの社会は成り立っているように感じました。

② 女子児童K

私たちは、税金によって支えられて生活しているということが分かりました。何気なく使っている机や教科書ですが、これからもっと大切に使おうと思いました。

私たちは、いつか大人になります。その時は、『税金を納めて大切に活用する大人』になりたいと思います。

③ 男子児童M

自分が想像していた以上に税の種類がたくさんあることを租税教室で学び、驚きました。また、最初、税に悪いイメージがありましたが、税に関するアニメを見たり、役場の方の話を聞いたりして、税はとても大切なお金と知りました。

④ 女子児童M

少し難しい話でしたが、とても勉強になりました。質問に対して丁寧に答えてくださったのでとても分かりやすかったです。女川町の税金だけで30億円を超えていた事にとても驚きました。一人一人が働き、助け合うことが私は必要だと考えています。

9 まとめ（実践を終えて）

- ・児童は、税に関して律令時代の「租・調・庸」や江戸時代の「年貢」を学んでいた。そのため、現在の税と比較することができ、税のしくみや内容についての興味・関心を高めることができた。
- ・女川町の税務会計課の職員から話をいただくことで身近な事象から税の集め方や使われ方について理解を深めることができた。
- ・DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」の視聴を通して、税金がなくなった時の生活が

不便になることを知り，税金が私たちの生活を支えていることを深く理解できた。

- ・警察署，病院，消防署等公共の施設管理や道路，ゴミ処理なども税金によって整備・運営されていることを理解できた。
- ・学校の物品の購入や施設の管理は，税金で行われていることを知り，物を大切にしようとする思いを持たせることができた。
- ・税に関する興味・関心が高まり，メモをしながらまとめを聞いていた。

10 最後に

児童は，消費税を支払うなど，実生活の中で税と関わっている。しかし，歴史上での税には，「人々を苦しめるもの」という認識を持っていたため，税によいイメージを持っていなかった。しかし，今回の授業で，税は私たちの生活を豊かにするものであり，社会のみんなで支えるシステムであることを知った。児童は，納税の大切さを学び，社会的な義務や責任を果たそうという気持ちを感想文に表すことができた。これからの社会を担う児童にとって貴重な機会となった。これまでに女川町税務会計課の職員の皆様に多大なる御支援・御協力をいただいたことに改めて感謝したい。